

卸売市場再考

津魚青果市場における要素からの再構成

Reconsideration of the whole sale market

石黒貴大

Yoshihiro Ishikuro



■市場中央化の背景

スーパーの増加にともない市場における商品の取扱量が減少したため、これまで卸売市場は競争力を失ってきた。しかし、市場が遠くなくなり、高利化した卸売業者や飲食業者が遠くなくなり、卸の機能に大きな影響を与えている。中央卸売市場がすべての市場機能を担うことができないことがわかったとき、消費者を支える小さな卸売市場のありかたが問われている。

■物流センターとした卸売市場

現状の卸売市場は、完全に物流システムの影に隠れてしまっている。野菜や果物の盛り、漁の土臭さと臭いの飛び交う市場の場、消費者はその実態を知らずにきれいに包装された商品を消費し、通常あふれるこの場所に転れる機会がない。

■設計の意図

そこでプロたちの集まる場である市場に一般市民のための市場の機能を生かす。市場空間を、物、事、人の要素から再構成し、市場空間の魅力を最大化した空間をつくりだすことで、これからの卸売市場のありかたを提案する。



提案

■敷地

敷地は三重県津市港町の魚市場と果菜市場である。商業的な住宅や商業施設が多く集まる都心に位置し、かつては漁港市場であったため道は多くの人々でにぎわっていた。今では裏と化してしまつたこの場所は、一般市民のための機能を付加する。

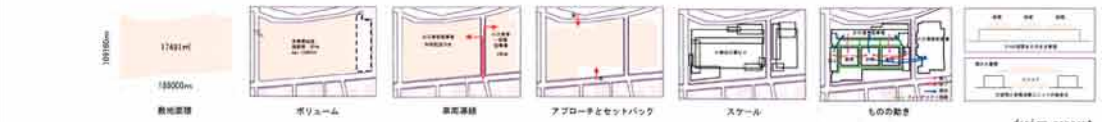
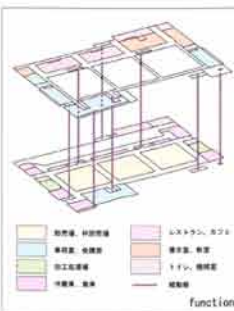
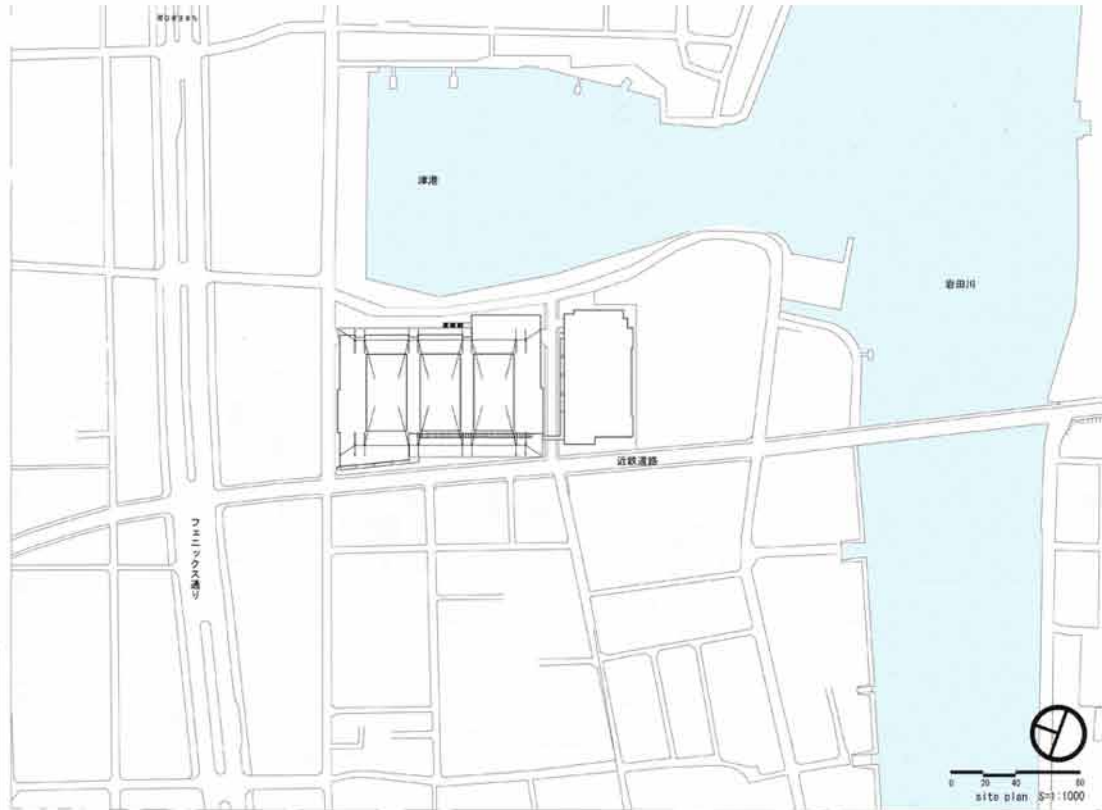
■市場と市場の顔

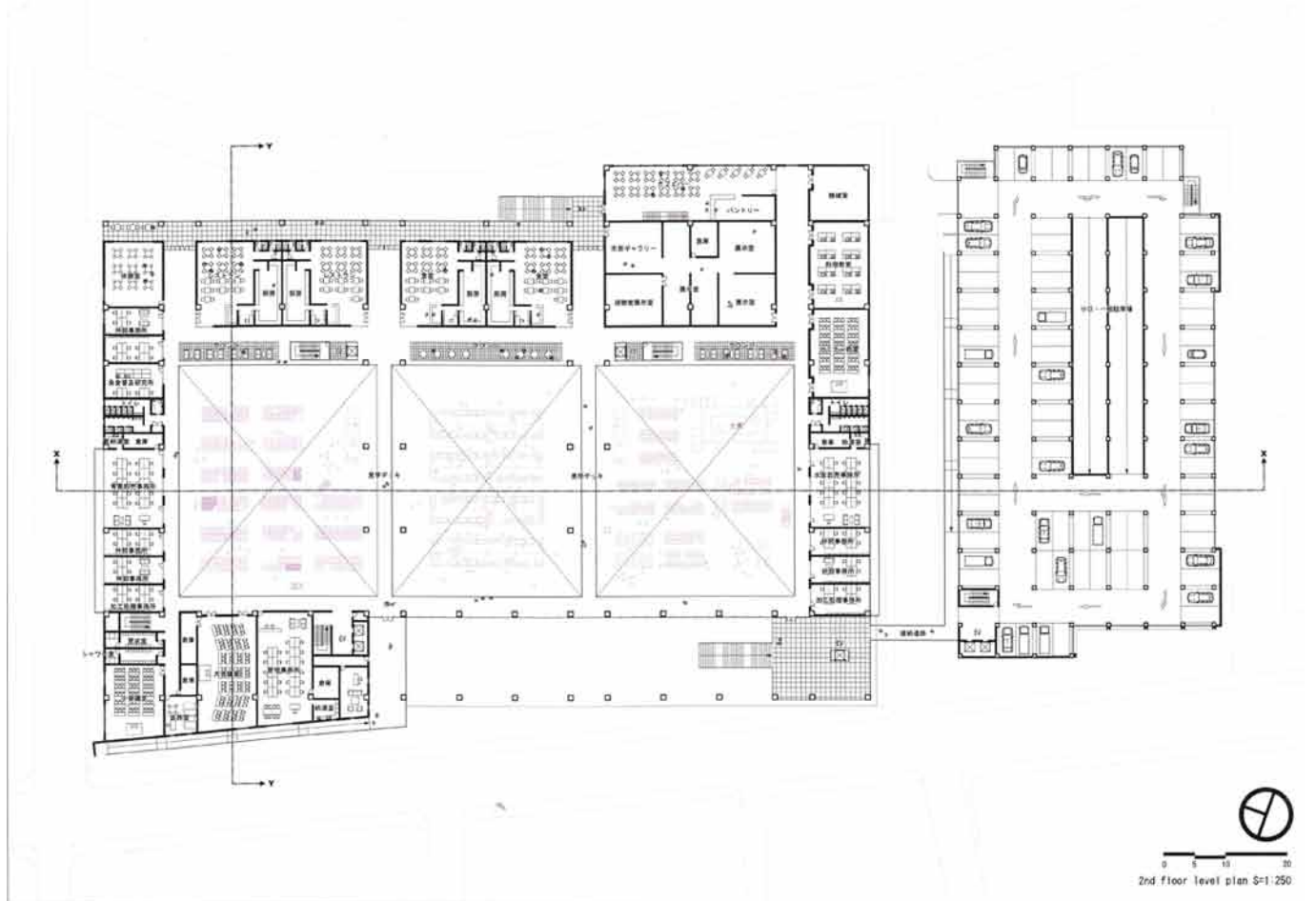
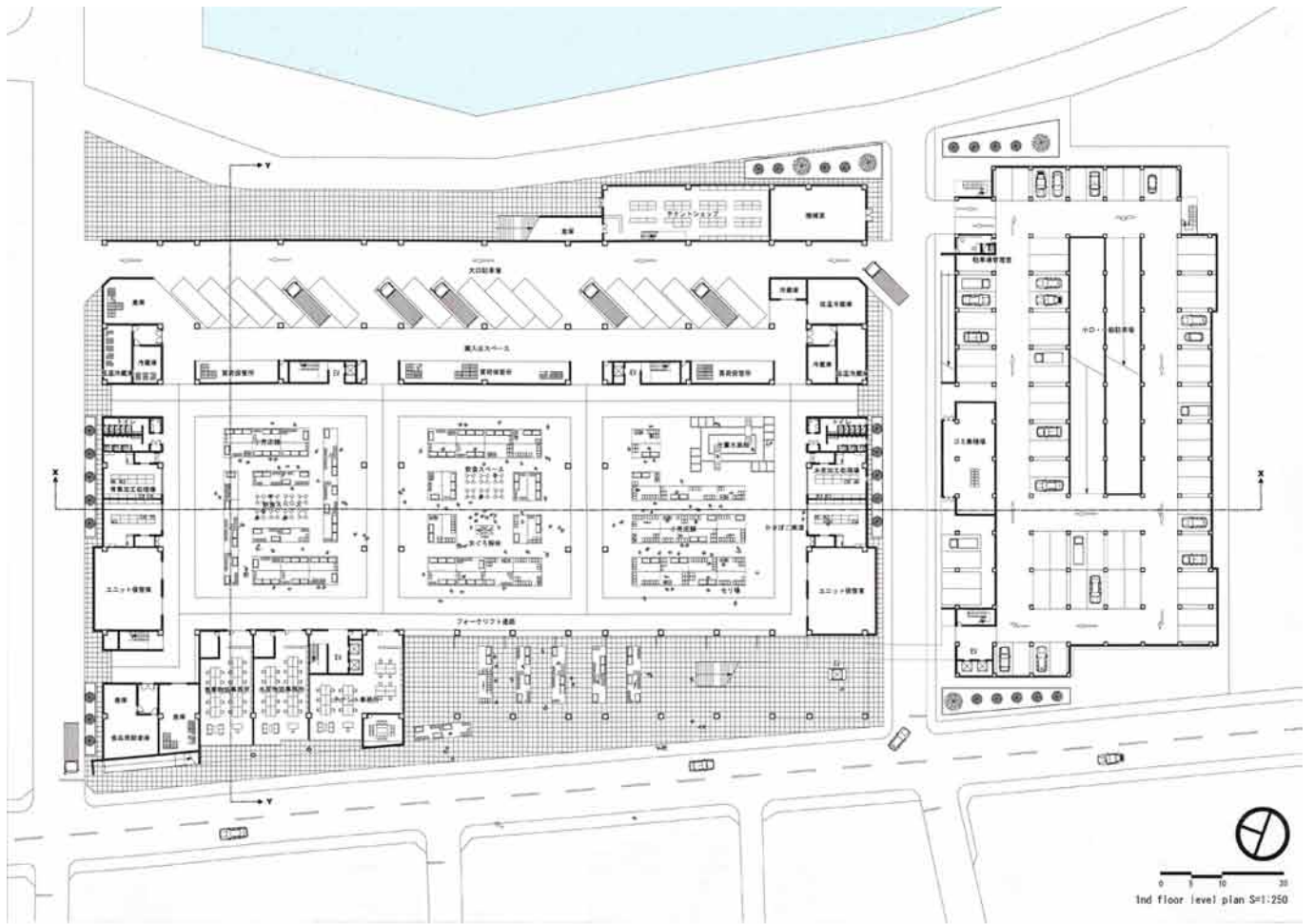
主な機能は卸売市場と小売店舗、飲食店である。この市場はプロのための卸売市場と一般客のための小売店が同じ空間を共用し、時間差によって使い分けられるという特徴をもつ。夜中から早朝まではプロのための場、昼以降のものが届出された場の時間帯には小売店舗が展開することで、この限られた土地の中で、常に賑わいを創出する施設となる。

■デザイン

周辺建物のスケールに合わせて、できるだけ高さ低くし、小さなスケールの量りによって構成して、親しみやすい大きとした。

購入、セリから届出までの時間は1:00-6:00である。その後はたっぷり広い空間となつてしまう卸売場に仮設ユニットの店舗を配置し一転夜の場とする。





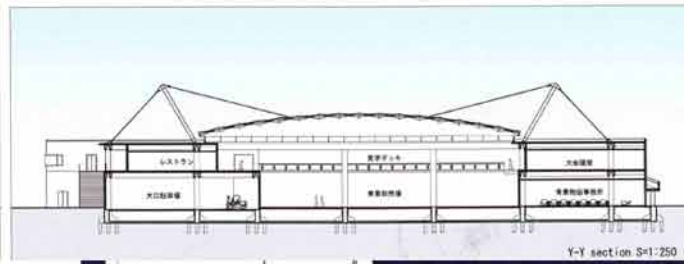
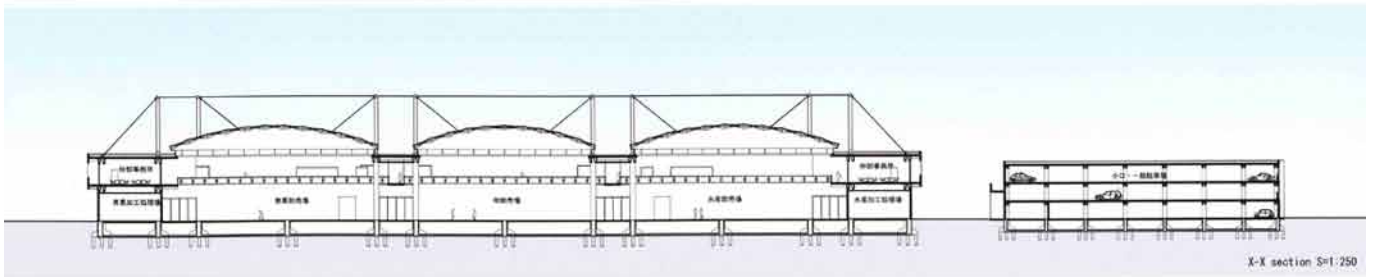
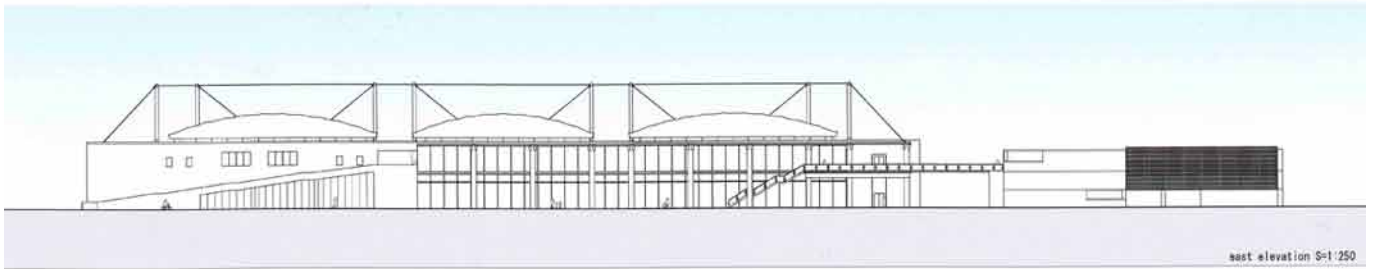
立・断面計画

■自由な見学用通路

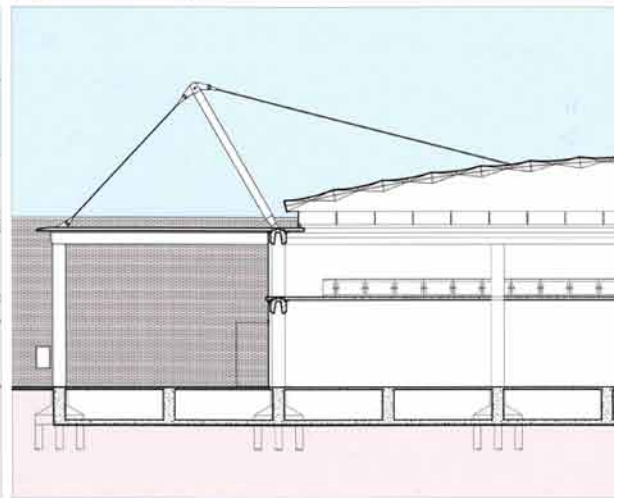
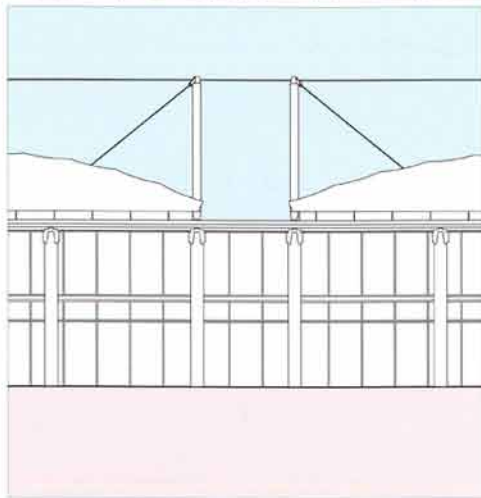
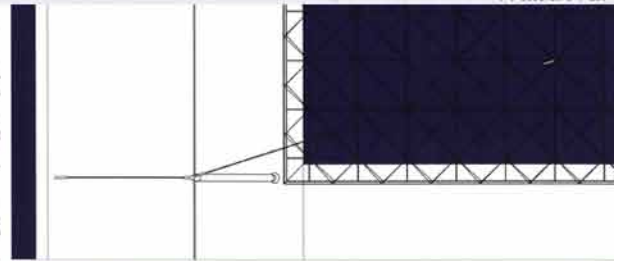
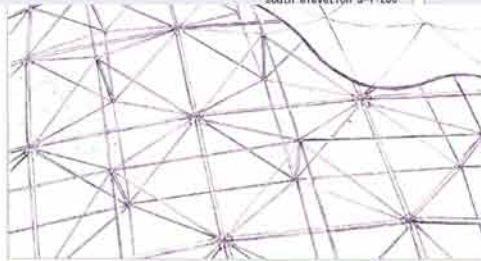
卸売市場の構想期において見学者は建物の正面と高所に居られた。大階段やスロープ、エレベーターなどを活用し、見学デッキにアクセスする。これによってプロと見学者の境は自然と行離されるため、自由な見学が可能となる。

■連続した大空間

卸売場、特設売場にはそれぞれテンセグリティックと橋脚構造によって支えられた大屋根がかかることで、自然は自然に明るく照らされ、季節、気候は自然の光がもたらす変化に任せられる。また、壁によって上部の温度が上昇するため、下から上へと風が流れ、中間階は屋根と両隣の構造の間に設けられたスリットによって換気される。



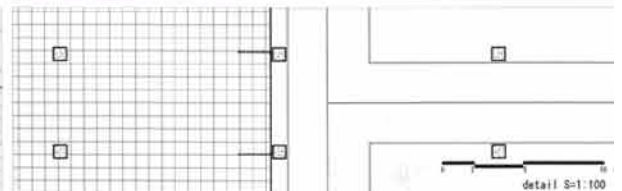
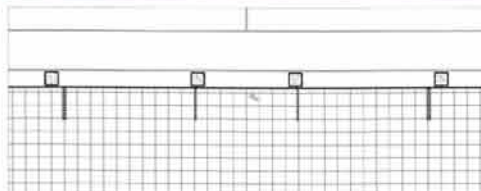
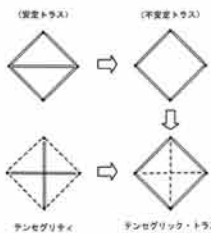
構造詳細



■テンセグリティック構造

屋根の構造はトラス構造とテンセグリティックを合わせたテンセグリティックトラスとし、その屋根を斜線式張り構造によって張り上げている。

立体的な屋根と張られたケーブルが内部空間に緊張感を与え、上部に伸びる吊り構造の支柱と水平に展開する層構造のコントラスが水際の風雨を吹き飛ばしている。また、外側から見た支柱ケーブルは視覚を阻害させ、そこに無い場所であることを実装する。



detail S-1:100

仮設の店舗ユニット

■従来の店舗形態

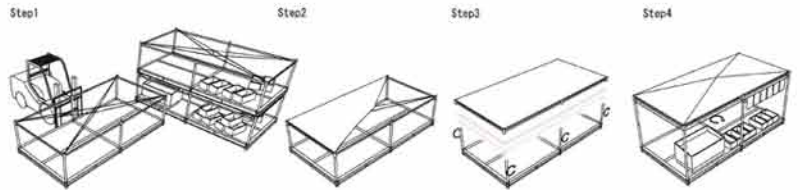
従来の卸売市場の店舗は固定式である。そのため敷地内には多くの店舗が建ち並んで敷地が狭く、卸売市場の機能的な空間が確保されるが、品物の少ない種類には店が狭くなる傾向が顕著になってしまふ。

■仮設店舗ユニットの提案

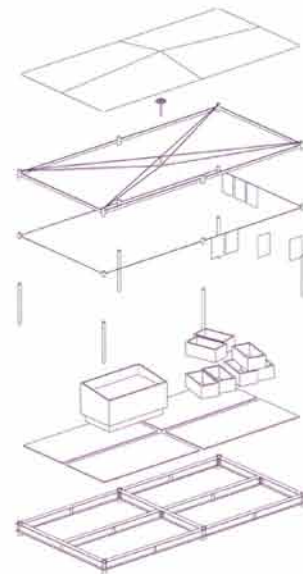
仮設店舗ユニットは固定式で、敷地内に合わせて店舗の数を増減させることができる。店が狭くなったことで生まれるスペースは店舗間のオープンスペースとして利用することができ、集積する場所を設けないこのユニットは、建物から壁へも開放し、雨にも市場の空気もあふれていく。

■ユニットの利点

敷地狭小な環境に、増設の作業が容易になるように、市場で使われている半型のフォークリフトで移動できるようにした。使わないユニットは柱を短くし、ものを載せたまま簡単に移動する。



格納されているユニットをフォークリフトで倉庫から運び出し、その場所に立ち上げを完了させる。
 各柱の頂部にサントラックをかける。
 各柱の高さを互いに少しずつ高くする。
 両端にサントラックを掛け、サントラックを張る。



サントラック：ユニットを移動するときに、壁や柱を挟んで、建物全体の空間をスムーズに移動させることができる。

サントラック：サントラックによってサントラックの間に隙間を設ける。

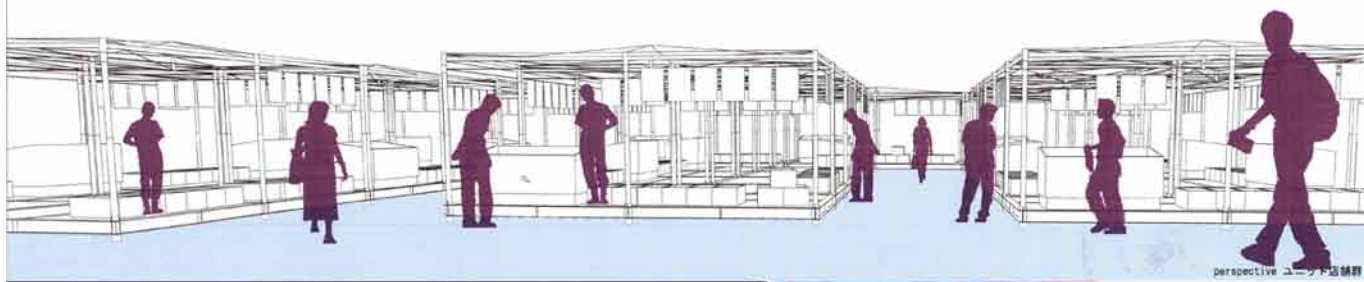
サントラック：柱の間にサントラックを掛け、サントラックの間に隙間を設ける。

ワイヤー：柱の間にワイヤーを張る。ワイヤーは店舗の壁から隙間を設ける。

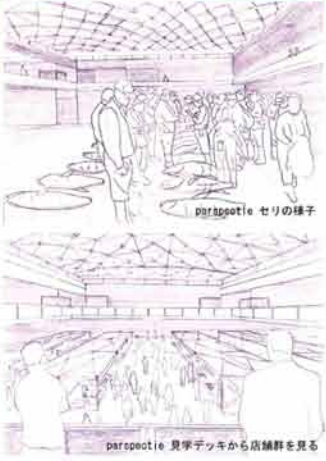
材料：上部構造を木で構築し、柱の断面は200×200mm程度の木材を使用。床はコンクリートで構築し、床下には排水溝を設置する。

サントラック：床下には排水溝を設置し、床下には排水溝を設置する。

説明：柱の間にサントラックを掛け、ワイヤーは店舗の壁から隙間を設ける。



模型写真



卸売市場と一般市場の動向により、この市場は時間差を減らして高に引き上げられる。早期、やわらかな空気を備えたこの市場が、市場の中にずっと開きつづける。その下ではセリの掛け声が響き交い、見学者はその様子を見守りながら、選ばれるものの中は選りすぐられたものを見て、一般客とプロの交流の場となる。そしてまた、雨には早くも次の準備が始まる。